

リオオリンピックが終わり、東京もオリンピックに向けて準備が慌ただしくなります。英語のほか韓国語や中国語のアナウンス、看板も耳にしたり、目につきますね。個人的にはもっとスペイン語表記が必要かと。母国語がスペイン語の国は沢山あります。さて、コンビニなどのお店でも外国人のスタッフさんが日本語をうまく話し働いています。過去には亀の井歯科にも中国出身の先生や助手さんがいたこともあるのですよ。勉強の秋。外国語に触れてみて、おもてなしの準備はいかがでしょうか？

歯による粘膜の変化（築野）

鏡で自分の口の中を観察すると、舌の側面にギザギザしたものや、ほっぺの内側の粘膜に白い一本線のものができて気になったことはありませんか？矯正治療中の方は粘膜に傷ができていている方もいるかもしれません。さて、それはいったい何なのでしょう？

舌の側面のギザギザ



「^{しこんぜつ}歯痕舌」といいます。舌は粘膜に覆われ、血管がたくさん集まっているところなので血液や体液の質およびその過不足、体調などがよくわかります。余分な水分が多い時は舌もむくみます。味付けの濃い食事や過度の飲酒に関係があるといわれています。食いしぼりをすると歯形がつきギザギザしたものができます。

ほっぺの粘膜にできる白い一本線



咬み合わせた上下の歯の線に沿って、多少の隆起を伴った白いスジが、見られることがあります。白線といって、頬粘膜を慢性的に上下臼歯部において咬んでいる人に多く見られるもので、白いミミズ腫れのように見えるものです。「頬粘膜圧痕」あるいは「咬合線」といいます。原因は、咬頬癖、頬吸引癖、噛みしめ、くいしぼりが考えられます。

矯正装置による粘膜の傷



矯正治療中は、器具が粘膜に継続的に刺激を与えることで粘膜に傷がつき、口内炎ができてしまいます。なかなか治らない場合には、装置が口内に接触する部分を改善することが必要です。

粘膜の変化では、特に治療をする必要がないことが多いです。しかし白色変化の中には経過観察や治療が必要な場合もあります。ご自身で判断しかねる場合はお尋ねください。

歯の形態異常（伊藤）

前回のかわら版では歯の構造の異常について説明しました。今回は形態異常についてです。歯の形態異常は問題のないものもありますが、虫歯や歯周病につながる恐れのあるものも存在します。

① 舌盲孔

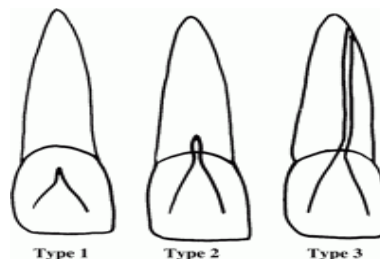
歯の裏側にみられる小さな溝のことで、多くは上の2番目の前歯（上顎側切歯）にみられます。一見小さな穴のように見えるため、「生えたての永久歯にむし歯がある！」とってしまうかもしれません。溝に汚れがたまりやすく磨きにくいので、舌盲孔からむし歯にしてしまうことがあります。

この舌盲孔の溝が歯肉の下まで進み、根の先まで到達することがあります（斜切根）。

この溝には歯肉が付着しないため歯周ポケットが突然深くなり、感染しやすくなった結果歯肉の腫れなどを起こす可能性があります。シーラントなどでむし歯予防を行っても、

舌盲孔の周囲は丁寧に汚れを落としましょう。

舌盲孔のむし歯の予防法 シーラント(予防填塞)が有効です



② 中心結節

歯の噛む面がとがりトゲのようになったもののことで、下の小臼歯によく見られます。

噛む面の形態異常のため、上下の歯で噛んでいるうちに折れてしまう場合があります。

症状がなければ問題はありません。中心結節の中に神経が入り込んでいた場合は、折れた後に神経が露出し痛みやしみるなどの症状が現れることがあります。

症状によって根の治療を行います。

歯の形態異常は、生えてきた初期の段階で気が付けることが多いです。仕上げ磨きの時などにお子さんの歯を見てみてください。

中心結節の破折の予防法

- 上下の歯のかみ合わせを調整し噛む際に当たりにくくする
- 中心結節の周囲を補強する

